



秋津デイサービスセンター
主任

後藤 太作 さん

阿蘇市出身。熊本県立大学卒業後に福祉の道に進み、
2014年から秋津デイサービスセンターに主任として勤務。
AEAJアロマテラピー検定1級を受験し、アロマテラピーアドバイザー資格の取得を目指している。

社会福祉法人 熊本市社会福祉事業団 秋津デイサービスセンター

利用者自身が活動内容を決める“自己選択・自己決定型”を目指すデイサービス施設。1日につき38名の定員で、アロマ活動のほか介護太極拳やフラワーアレンジ、書道、機能訓練など、多彩なプログラムで利用者の生活をサポートしている。



(左上)住宅街に囲まれた場所。地元の学生や保育園児とも積極的に交流している(左下) 2014年2月から行っているアロマ活動の様子。撮影は後藤さん(右)「いつも痺れている手も、調子がいいみたい(笑)」と、アロマが大好きな利用者・馬場アヤ子さん



「好きな香りは、レモングラスやカモミールといったハーブ系ですね！以前勤務していた施設で、利用者の皆さんと一緒に栽培したハーブをお茶にして楽しんでいたからかな」。未だ女性の割合が多いアロマの世界で、高校時代は陸上に励んでいたという体育会系男子・後藤さんの口から飛び出す言葉は、とても新鮮で頗もしく感じるものだ。秋津デイサービスでボランティアでのアロマ活動が始まったのは、昨年2月のこと。その後にスタッフとなった後藤さんにとって“アロマテラピー”という言葉は聞いたことがあつたものの、その内容に触れたのは初めてだった。「アロマオイルを使ってハンドトリートメントやフットトリートメン

トをすると、皆さんのが本当に喜ばれます。ある80代の女性の利用者さんは、顔や手、そして足をトリートメントしてもらうために、何度も並んでいらっしゃいました(笑)」。肌と肌が触れ合い、様々なコミュニケーションをとりながら時間を共有できるアロマトリートメントに、男性の希望者も多いという。そんな光景を見るうちに、後藤さんにある思いが芽生えた。「アロマの効果や歳を重ねた方の肌の弱さなどのきちんとした知識を持つておかないと、良かれと思ってしたことがあだになるかもしれません。せつかく活動を行うなら、自分のスキルも高めたいと思うようになりました」。

それをきっかけに、より専門的なアドバイザー資格を見据えて、まずはアロマテラピー検定1級受験を決意。仕事の後にアロマライセンスカードで授業を受けて、自宅に戻ってから復習に励むなど、多くの女性たちと共に「黒一点」で専門知識を学んだ。「難しいのはアロマの歴史、オイルの抽出法や部位などの暗記物です。若いときみたいに、集中力が続かない」と苦笑しながら、アドバイザー資格を得た後の目標を後藤さんははつきりと思い描いている。一目指すのは、和室でお茶とアロマを楽しめる“あききカフェ”です。合格したら、もっと自信をもってアロマ活動に取り組みたいですね”。志の高い新たなアロマ男子の誕生を、多くの利用者が心待ちにしている。

目指すのは、施設内のアロマカフェ。